

## 環境調査結果のお知らせ

## 概況

本日、ヒロウラ（沖・中・丘：0・5 m層）の海水の持ち込みがありました。検鏡の結果、魚類に対して有害とされるコクロディニウム・ポリクリコイデスが最大で31細胞/mL確認されました。また、麻痺性貝毒の原因種とされるギムノディニウム・カテナータムが最大で0.37細胞/mL確認されました。

コクロディニウム・ポリクリコイデスは10細胞/mL（注意基準）を上回っています。今後、本種はさらに増殖する可能性があり、漁業被害の発生が懸念される100 cells/mL（警戒基準）に達する恐れがありますので、十分注意してください。

また、ギムノディニウム・カテナータムは1細胞/mL（警戒基準）を下回っていますが、二枚貝（食用を含む）の毒化を引き起こす恐れがあるので十分注意してください。

今後、飼育魚や海色等に異常が確認された場合は、海水をペットボトル等で採集し、漁協もしくは宿毛漁指導所にご連絡下さい。

調査点 (透明度/水深) 【調査時刻】	深度 (m)	プランクトン	
		コクロディニウム・ ポリクリコイデス	ギムノディニウム・ カテナータム
ヒロウラ 沖	0	2	0.00
	5	16	0.37
ヒロウラ 中	0	0	0.00
	5	31	0.00
ヒロウラ 丘	0	0	0.00
	5	28	0.16

参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準

有害プランクトン	被害	注意基準（※1）	警戒基準（※2）	主な赤潮発生時期 ※3
				宿毛湾
コクロディニウム・ポリクリコイデス	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	5～6月
ギムノディニウム・カテナータム	二枚貝の毒化	—	1 cell/mL	2～7月

プランクトンの細胞密度について、小数点第2位まで記載のあるものは、海水100mLを濃縮して検鏡しています。

※1 注意基準：餌食いの悪化、警戒基準に達する恐れのある密度

※2 警戒基準：魚類及び二枚貝のへい死並びに二枚貝の毒化が想定される密度

※3 あくまで目安なので、水産試験場・漁業指導所の広報や養殖魚の状態に応じて、慎重な養殖管理をお願いします。